

編集後記

韓国仏教留学生が中心となる『韓国仏教学SEMINAR』が第8号を迎えようとする。時はあっという間に経つという先人の言葉が奥深く実感される。1998年9月、新しい会長団が作られ、もう2年になろうとしている。

金天鶴副会長から、韓国で仏教学を学んでいる学生達のために、今まで発表された韓国仏教学に対する研究状況をまとめ、韓国仏教界に資料を提供しながら、留学生の研究やその位置づけも正当に評価した方がよいのではないかという提案があった。

早速話し合いを始め、今回は特集号として「日本における韓国仏教思想研究の成果及び展望」という論題が決められ、主題別に各々の専攻者が決定され、具体的な計画がスタートした。

もう一人の副会長である圓忠師と私は、支援金の渉外と研究会の広報を担当し、編集については金天鶴副会長が任された。また第8号論文集の刊行や、さらにその特集内容をハングル語に翻訳して単行本の形で出版することを企画した。執筆者は、駒沢大学石井修道先生を含め日本人研究者4名、さらに韓国人研究者2名とさせていただき、資料の収集方法、論文の叙述方法が論議された。その後、編集会議は6次に及び、相互の情報交換、論文進行に関わる問題点が討論された。

他方、浄財金調達を任せられた圓忠師と私は、韓国の大韓仏教曹溪宗の総務院・教育院や、幾つかの本山、布教院、研究機関、大学で教えている先輩方を訪ね、本雑誌のことや発刊に関する計画をお話しして支援の要請を申し上げた。

このようにして1年余りの時を経て、細部の原稿校正に入り、集めた原稿がようやく全体的にまとめられるようになった。同時に浄財金についても、前総務院長の泉山師、総務院・教育院、性徹思想研究会、松廣寺、ハンマウン（一心）禅院、能仁禅院、通度寺釜山布教院、海印寺金剛窟、平成寺（東京）信徒会、海雲師、中央僧伽大学の弘禅師・宗釈師・本覚師な

どから御支援を頂戴し、さらに単行本出版される蔵経閣からも布施をお受けするに至った。特に総務院の総務部長の圓澤師からは、この論文集が出版されるまで、様々な御配慮・御協力をいただいた。

最後に、お体が不調にも関わらず巻頭言をお書きくださった柳田聖山先生、貴重な研究時間を割いて御協力いただいた執筆担当の先生方、また編集に熱意を注ぎ本当に真摯に取り組まれた金天鶴副会長に深甚なる感謝の意を表します。なお、御支援を頂戴した各々の団体、個人の方々、また単行本出版に関して御承諾いただいた蔵経閣の皆様には万感を込めて心から感謝申し上げます。皆様の御恩に報いるよう、初心に帰って、これからもさらに研究に精進していきたいと思っております。